

桐生版 CCRC 構想の早期策定について（継続）

地方移住を希望する元気なシニア世代を呼び込むための受け皿とすべく、桐生版 CCRC (Continuing Care Retirement Community) 構想の早期策定を求めます。起業意欲を持つシニア世代への創業支援や、空き屋を活用した安価な住居提供、まちの賑わいを生む交流スペースの整備など、桐生市の既存サービスを CCRC 構想として具体的に示すことで、移住者が長く活躍できるコミュニティの実現へとつながると存じます。人口問題の改善、地域の消費喚起、雇用の維持・創出など地域活性化の点からも早期の策定が必要と考えます。

また、子育て世代へのサービスが充実し高齢者と若年層が共生する桐生ならではの特性を生かし、桐生版 CCRC は山口県宇部市の構想と同じく、シニア世代に限らない「多世代」を対象にすることが好ましいと考えられます。スマートシティの推進、公共インフラの整備と併せ、桐生の暮らしやすさを多世代に発信することで、その効果を高めることが期待できます。

桐生市からの回答

当市では、国の「CCRC（生涯活躍のまち）構想」につきましては、これまで先進地視察や庁内外の会議における意見交換等を適宜行いながら、その費用対効果や持続可能性などの視点から研究してきました。

国の構想におきましては、東京圏から地方への中高齢者の移住に重点を置いた当初の CCRC 構想から、あらゆる人が、居場所と役割を持ってつながり、健康でアクティブに活躍できるコミュニティづくりを目指す全世代・全員活躍型の「生涯活躍のまち」構想へと視点の転換が図られています。

このような動向を踏まえ、全世代・全員活躍型の「生涯活躍のまち」構想を当市の実情に照らしながら、引き続きその研究を行っていきたいと考えています。

〔回答担当〕 保健福祉部健康長寿課長寿支援係